

第 1 4 5 回簿記検定試験
3 級 出題の意図

[第 1 問]

(出題の意図)

過去問に類題のある基本的な問題です。

1. 店主の個人的な支出は、店の費用にはならない点に注意する必要があります。勘定科目一覧から、選択できる勘定科目が限定されますので、そこから適切な処理を判断します。
2. 商品券と他店商品券を区別して処理することができるかがポイントになります。
3. 手形の割引に関する問題です。利息の日割計算を正確に計算できれば、解答を導き出すことができます。
4. 購入代価に購入手数料などの付随費用を加算して土地の取得原価を求めることができるれば解答を得られます。
5. 源泉徴収した所得税額を納付した場合に、適切な勘定科目を用いて仕訳できるかどうかポイントです。

[第 2 問]

(出題の意図)

本問は、支払利息勘定と未払利息勘定について、期中の取引および締切時の記入方法を理解しているかを問う問題です。借入先は2箇所ありますが、難しい問題ではないと思います。金額については、各借入金の元本、年利率、借入期間をもとに、利息額が正しく計算できるかを問いました。語句については、損益計算書項目と貸借対照表項目の締切時の記入方法の相違を理解しているかを問いました。

[第 3 問]

(出題の意図)

11 月末の合計試算表に、12 月の取引を合算して 12 月末の合計試算表を作成する問題です。一つ一つの取引は基本的なものですから、少し量が多いのですが、丁寧に解いていけば解答できます。

当座預金、売掛金および買掛金は何度も出てきます。貸借逆の仕訳をしてしまうなどのミスがないように注意しましょう。また、発送費については、当店が負担する場合と、先方（得意先）が負担する場合の両方が問題に出ています。

それぞれ処理方法が異なりますので、問題文を見ながら適切に仕訳をすることが重要です。

また、29 日の取引については、前年度の売上にかかる売掛金であることに留意して解答しましょう。

[第 4 問]

(出題の意図)

似た取引について違いを理解しているかを問う出題です。

1. 自動車に関する税金について、主に取得時にかかるものと所有中にかかるもので処理が異なることを理解しておく必要があります。また、同じ税金でも所得税について従業員に支払った給料から源泉徴収した分と、事業の所得すなわち利益に課せられる分でも処理が異なることを理解しておく必要があります。他の大問と比べて配点は少ないですが、どの規模の企業でも税金の処理は必要になるため、正確に理解しておくことが望まれます。
2. おそらく、今まで資本的支出が 3 級で出題されたことはありませんが、既存資産に付加する形での追加的な取得であり、税金の処理にも大きく影響するため、考え方は理解しておく必要があります。

[第 5 問]

(出題の意図)

決算の処理を問う典型的な精算表の出題です。出題論点は、現金過不足を除けば過去に何度も出題している項目です。また、現金過不足については、イレギュラーな状況を想定し暗記に頼らず柔軟に対応できる応用力を問う意図で出題しましたが、指示どおりに落ち着いて解けば正解を導けるはずです。したがって、高得点をとることが望まれます。